

ヘルパンギーナが流行、都内で警報基準を超える

～ 子供を中心に流行する感染症にご注意ください ～

ヘルパンギーナは、夏に乳幼児を中心に流行する感染症ですが、都内の小児科定点医療機関からの第24週（6月12日～18日）における患者報告数が警報レベル開始基準値を超え、大きな流行となっています。

また、RSウイルス感染症の報告も急増しています。

いずれの疾患も、保育所等での複数感染事例が報告されていることから、注意が必要です。これらは、特別な治療法やワクチンはなく、感染予防策としては、こまめな手洗いや、咳やくしゃみをする時には口と鼻をティッシュ等でおおうなどの咳エチケットが大切です。

患者は、乳幼児を中心に学童にもみられるため、家庭、保育所、幼稚園、学校等においても感染予防策の徹底をお願いします。

【 ヘルパンギーナの患者発生状況 】

- ◆小児科定点医療機関から報告されたヘルパンギーナの患者数を保健所単位で集計し、1定点当たり6.0人/週を超えると警報開始となります。警報は2.0人/週を下回る（警報終息）まで継続し、警報開始から警報終息までの間の状態を「警報レベル」としています。
- ◆2023年第24週（6月12日～18日）の都内264か所の小児科定点医療機関から報告された定点当たり患者報告数（都内全体）は6.09人（/週）となっています。

都の警報基準（以下の①または②のどちらかが基準値を超えた場合）

- ① 定点医療機関からの患者報告数が、都全体で警報レベル開始基準値を超えた場合
- ② 警報レベルにある保健所の管内人口の合計が、東京都全体の人口の30%を超えた場合

【 RSウイルス感染症の患者発生状況 】

- ◆2023年第24週（6月12日～18日）において、都内264か所の定点医療機関（小児科）から報告された患者数は、604人（1定点当たり2.32人）で、2003年の調査開始以来、最も高い値を記録した2019年と同様の傾向を示しています。
- ◆第1週から第24週までの患者の74%が、2歳以下の乳幼児でした。

RSウイルス感染症は、警報レベル及び都の警報基準の設定はありません。

【 問合せ先 】

（感染症に関する東京都の対応等、全般に関すること）
東京都福祉保健局感染症対策部防疫・情報管理課
03-5320-4088

（感染症患者の報告数（感染症発生動向）に関すること）
東京都健康安全研究センター企画調整部健康危機管理情報課
03-3363-3213

主な症状

【ヘルパンギーナ】

- ◆38度以上の突然の発熱、口の中にできる水疱が主な症状です。
- ◆水疱や、それが破れたことによる口腔内の痛みのために不機嫌、食欲不振、脱水を呈することがあります。

【RSウイルス感染症】

- ◆発熱、咳、鼻水、咽頭痛、倦怠感（元気がない等）などの、かぜに似た症状です。
- ◆生後6か月未満の乳児の場合や、先天性心疾患、慢性肺疾患などを持つ小児の場合は重症化するおそれがあります。呼吸が早い、息苦しそうにしている、肩や全身を使って息をしている、顔色が悪い、元気がないなどの様子が見られた場合には、早めに受診しましょう。

感染経路と感染予防のポイント

- ◆ウイルスが含まれた咳やくしゃみを吸い込んだり、手についたウイルスが口に入ったりすることで感染します。
- ◆こまめな手洗い、咳やくしゃみをする時には口と鼻をティッシュ等でおおう等の咳エチケットを心がけましょう。
- ◆咳などの症状がある場合は、登園を見合わせるなど無理をさせないように配慮しましょう。
- ◆症状がおさまった後も、患者さんの便の中にはウイルスが含まれますので、トイレの後やおむつ交換の後、食事の前には手洗いを心がけましょう。
- ◆集団生活ではタオルの共用は避けましょう。
- ◆先天性心疾患、慢性肺疾患などを持つ場合などは、かかりつけ医に相談し、感染予防や病気にかかった場合の対応について助言を受けておきましょう。

別紙「子供を中心に流行する感染症について」もあわせて御参照ください。

子供を中心に流行する感染症について

1 感染症名、主な症状等

	ヘルパンギーナ	RSウイルス感染症	手足口病	咽頭結膜熱（プール熱）
主な症状	<ul style="list-style-type: none"> ● 突然の高熱で発症し、口の中の奥の方に水疱や潰瘍ができます。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 発熱、咳、鼻水、咽頭痛、頭痛、倦怠感（元気がない等）など、かぜに似た症状です。 ● 肺炎を起こすなど重症化することもあります。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 口の中、手のひら、足の裏などに、発しんや水疱ができます。あまり高い熱は出ません。 ● 重症化はまれですが、合併症として急性脳炎や心筋炎があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 発熱、咽頭炎（のどのはれ）、結膜炎（目の充血）などの症状があらわれます。
原因ウイルス	エンテロウイルス属のウイルス（コクサッキーウイルスA群、エンテロウイルス71型等）	RSウイルス（Respiratory Syncytial Virus）	エンテロウイルス属のウイルス（コクサッキーウイルスA群、エンテロウイルス71型等）	アデノウイルス
感染経路	<ul style="list-style-type: none"> ● 患者の咳やくしゃみに含まれるウイルスを吸い込むことによる飛まつ感染 ● 水疱の内容物や便の中のウイルスが、手を介して口や眼などの粘膜に入ることによる経口及び接触感染 ● 咽頭結膜熱は、感染力が強く、プールや温泉施設などでの感染もあることから「プール熱」とも呼ばれています。 			
治療	<ul style="list-style-type: none"> ● つらい症状をやわらげる対症療法が中心です。 ● 咽頭結膜熱は、眼の症状が強い場合は眼科での治療を行います。 ● ワクチンや特効薬はありません。 			
その他	<ul style="list-style-type: none"> ● 食事や水分がとりにくくなり、脱水症状をおこすことがあります。水分補給に努め、柔らかく、刺激の少ない食事を工夫しましょう。 ● ぐったりしている、呼びかけに対する反応が鈍い、意味不明の言動がみられるなどの症状が現れた場合はすぐに受診しましょう。 ● 特にRSウイルス感染症については、小さなお子さんにかぜのような症状が見られ、熱が38度以上に上がる、呼吸が浅く速くなる、ゼイゼイと咳が続く、痰が詰まる、急にぐったりするなどの様子が見られたときは、早めに医療機関を受診しましょう。 中でも、生後6か月未満の乳児や低出生体重児、心疾患、肺疾患、免疫不全のある方の場合は、重症化しやすいとされるため注意が必要です。 			

2 感染予防のポイント

お子さん

- こまめな手洗いを習慣づけましょう
(手洗いは多くの感染症に共通する重要な予防策です)
- お子さんが理解できる範囲で咳エチケットを心がけましょう
(人に向けてくしゃみをしないなど)

保護者の方や保育所等の職員の方

- 手指衛生や咳エチケットなど、感染防止にこころがけましょう
- お子さんに咳などの症状のある場合は、登園を見合わせるなど無理をさせないように配慮しましょう
- 症状がおさまった後も、患者さんの便の中にはウイルスが含まれますので、トイレの後やおむつ交換の後、食事の前には手洗いを心がけましょう
- 保育所、幼稚園、学校などの集団生活では、タオルの共用は避けましょう
- 先天性心疾患、慢性肺疾患などがある場合は、かかりつけ医に相談し、感染予防や病気にかかった場合の対応について、助言を受けておきましょう

咳エチケット

- ① 咳が続くときはマスクをつける
- ② 咳やくしゃみ際にはティッシュなどで口や鼻を押さえる
- ③ 咳やくしゃみがほかの人に直接かからないようにする